

# さぽーとだより

発達障がいシリーズ②

平成 21 年 3 月発行 (22年3月改訂)  
 大阪府障がい者自立相談支援センター  
 (知的障がい者支援課)

## 特集：広汎性発達障がいのある人が安心して生活できるために

広汎性発達障がいの特性



- ・見て理解することは得意だけど、聞いて理解することが苦手。
- ・状況や相手の気持ちを理解することが苦手。
- ・目に見えないことを想像するのが難しい。予定の変更が苦手。
- ・たくさんの情報を一度に考えることが苦手。

発達障がいの人がわかりやすく、安心できる環境って…

- 話すときは、簡潔に、具体的に伝えてほしい。
- 目で見てわかるように伝えてもらうほうが、注意が向きやすい。  
例：絵、写真、図、文章などを使ってほしい。必要な部分をマークしたり、色で目立たせてほしい。
- 予定などの見通しをあらかじめ伝えてほしい。
- 注意が集中できるように、シンプルな環境に整えてほしい。
- 必要な情報を整理して、順序だてて伝えてほしい。

たとえば、作業場にたくさん人がいて、ざわざわしていると集中しにくくなります。自分の作業に必要なものがないものが置かれていると、混乱することがあります。

特性のあらわれ方はひとりひとり違います。その人が、「どう伝えられるとわかりやすいか」「どんなことに混乱しているか」「どんなことに注意をそらしてしまうか」「どんな作業に関心があるか」など、その人の特性をきちんと理解することが第一歩です。



## 広汎性発達障がいのある人とかわる人へ

～よくある質問～

Q1. 何度注意しても直してくれません。注意すると、イライラしたり怒るので、困っています。

注意されている内容がわからないのかもしれませんが、また、「だめ」「～しなさい」という言葉に敏感な人もいます。大きな声で何度も言われるとさらに混乱してしまうので、落ち着いた場所で、文字や絵などの見てわかる方法で伝えると、指示の理解がしやすくなります。注意する時には、「だめ」と言うよりも、おだやかな声で、どうすればよいかを具体的に伝えること（「走ってはだめ」→「歩きましょう」など）も大切です。

Q2. カードや写真・予定表を使うことが有効とよく聞きますが、それらのものにしばられた生活になりませんか？

カードや写真・予定表は、本人に見通しを持ってるように手助けするものです。見通しを持って安心した生活ができるようになれば、カードなどがなくても生活しやすくなる人もいます。本人にかかわる人が、「させたいこと」をおしつけるためだけに使っていないかどうか、気をつけましょう。

Q3. カードを見せても、興味をしめませんが、どうしたらいいですか？

カードの意味がわからないのかもしれませんが、そのような時は、本人がわかるものにかえる必要があるでしょう。わかってもしたくない場合もあります。本人の意向も確認しながら、関心のあることから始めるといいでしょう。本人にかかわっている人みんなで、どんなことが本人にわかりやすいか、話し合う機会を持ちましょう。

### 大阪府障がい者自立相談支援センター

(知的障がい者支援課)

〒558-0001 大阪市住吉区大領3丁目2-36

障がい者医療・リハビリテーションセンター内  
 TEL 06-6692-5263 (Fax 06-6692-3981)

受付時間 午前9時から午後5時45分まで  
 (土日祝日年末年始をのぞく)

交通機関

- ① 大阪市バス「府立総合医療センター」下車すぐ
- ② 阪上町線「帝塚山四丁目」下車徒歩約10分
- ③ 南海高野線「帝塚山」下車 徒歩約15分
- ④ JR阪和線「長居」下車 徒歩約20分
- ⑤ 地下鉄御堂筋線「長居」下車 徒歩約25分

この印刷物は5,000部作成し、1部あたりの単価は7.2円です。

